



といても、単に逝去者のことを偲ぶというだけのための日ではありません。あの人は良い人だった、とか、あの人は悪い人だったけど良いところもあった、ということ

ドイツの児童文学者、ミヒャエル・エンデはかく申します。「想像力の問題は人間の自由の問題と切っても切り離せない。その存在の前提条件において、人間は決して自由ではないのだから。なぜなら、過

この事実を、その生涯を通して示されたのが主イエス・キリストでありました。その生涯とは、単に生まれて死ぬまでの生涯ではありません。何故ならば、十字架があり、そして復活、昇天、聖霊降臨と、キリストの生は今もなお私たちへと続いており、共に歩まれているからです。そのキリストの生を確かに歩んだ、あるいは今もなお歩まれているのが、天に戻られた信仰の先駆者たちなのです。キリストの十字架につながり、それに生きている信仰の先駆者たちを思う時、同時に全ての人へ命を与えられた、主を思うことにつながるのである。どうか信仰の先駆者たちと共に祈るとき、共に主の御顔を仰ぎ見ることができましように。そして、あなた自身の人生と、あなたの隣人の命とを、見つめることができますように。

「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」
(ヨハネ 14・1-6)
(高知聖パウロ教会牧師・
松山聖アンテレ教会管理牧師)

11月になりますと、諸聖徒日、諸魂日と続き、教会の行事的には逝去者記念礼拝が行われることと思います。各教会の関係逝去者の名前が全て呼ばれ、その方々の生涯を覚える日です。

の、本当に多くの人の名前が呼ばれます。まったく聞いたことがない人の名前も呼ばれます。確かに、逝去者記念礼拝以外でも、まったく聞いたことがない人の名前が呼ばれるところもあります。たとえば、ある天災によって亡くなった人々を思う時、あるいは、人災によって亡くなった人々を思う時です。この時私たちは、会ったこともないけれどもある天災やある人災によって命を失った悲し

みを共有し、思うことができるのです。この時、彼らは、単に名を知らない人々ではありません。私たちと同じように、命が与えられた存在であるということとを、より強く感じることができるとは、ある何かの具体的な事柄においてでしょうか、働きがにぶいものなのです。

また、自分の人生と誰かの人生とは、全く別のものから当然のように距離があります。とても遠い距離です。そう簡単に、誰かのことを理解することなどできるものではないかもしれません。そして互いの違いによって、私たちは縛られてしまうものです。もし共通の事柄があるとしたら、それは互いに神によって命が与えられているという事実だけではありません。この事実は、時をこえ、場所をこえた真理であります。

「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」
(ヨハネ 14・1-6)
(高知聖パウロ教会牧師・
松山聖アンテレ教会管理牧師)

共に歩まれる方

司祭 オーガスチン 與賀田 光 嗣

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2011年 11月号

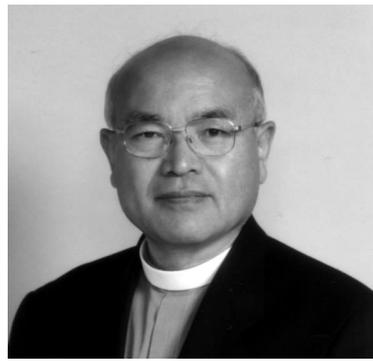
発行所 神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者 司祭 芳我 秀一

印刷所 文明堂印刷所

宣教・神のしもべの『白覚』

司祭 ヨハネ 秋山 義孝



『どうか聖霊によってわたしたちをこの世に遣わし、み旨を行なう者とならせてください。』
 これは、わたしたちが主イエス・キリストのお定めになった感謝・聖別の祭り＝聖餐に預かってい行くとき、司式者と共に唱えています。司式者は、「父と子と聖霊なる全能の神の恵みが、常に皆さんとともにありますように。」と祝福し、わたしたちは「アーメン」と応答しています。
 聖餐式は、神の民全体の業ですから、聖餐式の出席を大切に心がけましょう。

『神は、その独り子を賜ったほどにこの世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』(ヨハネ3・16)
 わたしたちは、神に愛されています。神の福音に与かっている自覚を常に大切にしたいものです。神のみ子イエス、贖罪主のイエスを仰ぎ見ることを忘れてはなりません。折りが良くても悪くても、神の愛は挫くことができない愛であって、無限大、平等、常時わたしたちの側に立って力となり、幸いなものへと変えてくださいます。神は、わが主、わがよるこびです。
 『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。』(マタイ11・28)

18歳のわたしが、はじめて教会に行つて目にした言葉です。教会に導かれたのも聖霊のみ業であり、導きにより、さらに感謝と喜び、平和を楽しみたいものです。毎日の生活に心配・悩み事は尽きません。「主よ、憐れみをお与えください」の祈りにすべてを委ねることにしています。
 『人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです』(ウェストミンスター小教理問答)
 神に喜ばれる生活について「あなたがたが聖なる者となることです。」(1テサロニケ4・3)

聖霊は、いつもわたしたちと共にいてくださるし、わたしたちを助け、導き、守り、必要を教え、思い起こさせてくださいます。
 宣教も神の聖霊の働きであって、わたしたちの信心の証しです。わたしたちは、信仰によって神の愛が満たされることにより、嬉しいみ業が成されます。
 『わたしは道であり、真理であり、命である。』(ヨハネ14・6)
 『キリストに結ばれる人はだれでも新しく創造された者なのです。』(IIコリント5・17)
 シスター渡辺和子さんが、「たとえ吸う息が不幸というものであっても、吐く息は感謝でありますように」と話されました。聖霊は、神の息、風です。目に見えないけれど、真の力、命、助け主、慰め主、真理の霊です。わたしたちは、日々の祈りと真摯なみ言葉の傾聴に一層専念することを忘れてはいけません。
 十字架の愛の主、イエス・キリストが、わたしたちの中におられることを知り、魂の洗濯のためにも、懺悔と赦しのため、神の共同体としての教会の礼拝に出席して、ますます元気に生活したいものです。
 『すべての異邦人よ、主をたたえよ。すべての民は主を賛美せよ。』(ロマ15・11)』

日本聖公会青年会議「井戸端会議」報告

管区青年委員 青年交流会チャプレン 司祭 ダビデ 林 和広

2011年8月29日(月) 30日(火)、京都パレスサイドホテルを会場に開催され、神戸教区から八代良寛兄(垂水伝道所)、山本風太兄(呉信愛教会)と私に参加しました。

「井戸端会議」

2010年8月に箱根で「プレ宣教会議」が開催されましたが、プログラムにあった「青少年・子供分科会」に参加していた青年達の中で活発な意見交換がなされました。

これまでは、各教区青年担当者が集まり、担当者間における意見交換を行い、様々な問題を共有することを目的とした会議が、年に1〜2回開催されてきました。管区青年委員会は、2010年8月の「プレ宣教会議」での青年達の意見を受け取り、青年担当者ではなく、青年同士が語り合う場を持つこと、青年達の声を聴くことを目的とした会議の開催を決定しました。

会議内容

1. 3人の青年からの発題
2. 青年同士(各グループ)の意見交換。
3. 教区青年担当者会議。
4. 東日本大震災ボランティア報告
5. 各グループから発表及び全体討議。

創造力を保ち続けること ― 東日本大震災

ボランティア活動

東日本大震災に関するDVDの中で、東北教区主教加藤博道神父は「想像力を保ち続けること」を強く訴えかけておられます。

震災から約5ヶ月を過ぎても厳しい現状が続いているなかにあつて、継続して被災地のことに関心を持ち続けて欲しいと切実な訴えがなされております。

東北教区青年担当者の越山司祭から①メディア、特にテレビだけの情報に頼るのではなく、様々なツールを使って地震に関する情報収集をして欲しいこと。②10月〜12月にかけてのボランティア活動要員を募集。③東北への旅行でも大きな経済的支援。長期のボランティアは大きな支えであること。④現地でのボランティア活動に関するコーディネートが必要としていることとの呼びかけを受けました。

U26..ユージロー

8月30日(火)の意見交換の中で、一つの提案がなされました。年齢18歳〜26歳までの青年達の繋がりを深め、青年集会を開催するというものです。

管区青年委員や各教区青年担当者側から提案し、呼びかけ、主導していくのではなく、青年達が自主的に様々な提案(スポーツ大会、運動会などを企画し、交流の場を持つなど)をして、青年集会を開催していきます。

最終的に、来年度2012年2月にこの青年の集まりを開催する方向で話がまとまりました。

東日本大震災関連情報

小名浜聖テモテ ボランティアセンター 10月の活動報告 (教区ホームページの 同センターページより)



10月1日(土)、瀬山会治司祭が派遣され、京都教区から現地調整者のバトンを引き継ぎました

小名浜ボランティアセンターは京都教区、大阪教区、そして神戸教区が1か月ごとに現地調整者を派遣していますが、10月は、神戸教区が担当ということ、1日(土)～15日(土)は、瀬山会治司祭、16日(日)から月末までは原田佳城司祭が派遣されました。



「ロケットくれよん」という、2人のお兄さんのグループが、子供達に元気を届けてくれました。



原発事故被災者のために学生・教職員が折った千羽鶴を託された。

また各地からボランティアの方々がこのセンターで奉仕されていますが、10月に神戸教区からここでボランティアに参加された方々は13名でした。

この間のボランティア活動としては、主に泉玉露の仮設住宅

において開いている「ほっこりカフェ」、西日本物産品のバザー、聖公会関係幼稚園でのコンサートなどのイベント企画と開催。また園舎や庭の除染・塗装作業を行うと共に、ご高齢の仮設入居者の方々からの要望に応えて、棚作りや補修、また敷地内の掃除やゴミ拾いなど、日常的な活動を通じて交流を深めています。



10月10日(月)、バザー。売上金は京都教区和歌山の台風被災者のために捧げられた。



神戸教区から来た青年たちは外壁塗装を完成するまでは帰らないと誓い合いました。



コーヒー豆は神戸から贈られた「頑張り！東北ブレンド」です。カフェは大盛況でした。



最後に、同学院創立者である八代斌助主教の記念式に共に参列した後、散会いたしました。

10月29日(土) 神戸教区担当の最後の「ほっこりカフェ」を開店した。

10月6日(木) 12時30分より、神戸国際大学付属高校において、今年で2回目となる同高校の宗教教育関係者と大阪教区を含む、兵庫県の聖公会教会の教役者との懇談会が開かれました。

10月10日(月)、11日(火)、14日(金) 神戸教区の各教会から送られた野菜などの西日本物産品バザーを、第1回目は10日(月) 泉玉露仮設住宅集会所、第2回目は11日(火) 小名浜聖テモテ幼稚園、第3回目は14日(金) 郡山セントポール幼稚園で開催。大変好評だった。

10月17日(月)、19日(水)、22日(土) 泉玉露仮設住宅の集会所で無料「ほっこりカフェ」を開店。10月17日(月)～22日(土) 滞在ボランティア2名が大工仕事のプロで、仮設住宅入居者の棚等の作成依頼に応えた。10月22日(土)～29日(土) 園庭等の除染作業が始まる。24日(月)に神戸教区から青年3名、司祭4名が到着。外壁塗装を行った。

神戸国際大学付属高校と兵庫県下の聖公会教役者の懇談会開催

公 示

日本聖公会神戸教区第79(定期)教区会を
招集します。

2011年9月21日

日本聖公会神戸教区
教区会議長

主教 アンデレ 中村 豊

記

日 時：2011年11月23日(水)

午前8時から午後5時まで

場 所：神戸聖ミカエル大聖堂

書記を下記のように任命します。

司祭 シモン 原田 佳城

司祭 ペテロ 中原 康貴

12月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2011年12月1日(木) 午前10:30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 主教 中村 豊

説教 司祭 岡崎 正

* 12月の記念逝去教役者 *

2日	主 教	チャニング・ウィリアムズ
2日	司 祭	ヨハネ 長壽 泉
5日	伝道師	森 慶三
5日	司 祭	テモテ 岩井 祐彦
10日	司 祭	パウロ 島田 信
10日	伝道師	パウロ 大石虎太郎
14日	伝道師	武田 頼夫
14日	宣教師	イブリン・プレストン
14日	司 祭	水野 功
14日	司 祭	ペテロ 貫 主税
16日	司 祭	尾形 虎三
19日	宣教師	マリー・ホームズ
20日	宣教師	ハナ・D・スコット
21日	司 祭	ペテロ 加藤九十九
29日	司 祭	マルコ 伊墻 八束
30日	伝道師	オードリー・ヘンテ
31日	司 祭	マルコ 杉野 貢

収穫感謝献金のお願い

神戸教区各教会
教役者・信徒 各位

目 的：教会等の修理・
バリアフリー化のため

募 金 額：200万円

募金期間：10月23日～11月21日

今年は具体的な募金対象はありませんが、近い将来必要な資金を準備し、引き続き、教会の働きが円滑に行われ、神と地域社会に仕える教会として成長していけますよう、お祈りに覚えつつ、お献げ下されば幸いです。

2011年10月20日
日本聖公会神戸教区

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

9月25日(日)
ブリジット 檜山 ミヨ
クリストファー 檜山 和司
神戸聖ミカエル教会

祝 堅 信

9月18日(日)
リディア 立木 裕子
マリヤ 立木 佐知子
徳島インマヌエル教会

9月25日(日)
マダラのマリア 平岡 和子
セシリア 江見 かのん
ヨハンア 江見 まどか
テレサ 江見 まどか
神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

9月17日(土)
マダラのマリア 平岡 和子
大阪教区川口基督教会より
神戸聖ミカエル教会へ

神戸伝道区

◎神戸聖ミカエル教会
9月25日(日)、地下ホール
改装工事竣工・祝福式が行われました。



徳島伝道区

◎徳島伝道区信徒研修会
伝道区信徒研修会が、9月23日(金・秋分の日)に徳島インマヌエル教会で行われました。
神戸教区セクシヤル・ハラスメント対策委員会委員長 松田宣子姉を講師にお迎えして、お話しを聴きました。午後は教区宣教協議会報告とグループに分れてのディスカッションを行いました。参加者24名

◎徳島インマヌエル教会

9月18日(日)、中村、豊教区主教をお迎えして2名の方々の堅信式が行われました。
また長寿感謝の集いを行い75歳以上の方々をお祝いいたしました。



2012年度聖公会カレンダー

11教区の教会と神学校を特集
カラー/A3版/13頁/1,200円
礼拝と生活をより充実させるため!!

礼拝の手引き・伝道・プレゼント・CS教材・部屋の装飾にどうぞ。
申込は広島復活教会内 ペロニカ会
または聖公会出版へ

※神戸教区の方は、各教会を通して広島復活教会まで(11月23日の教区会でお渡しします。)

人権活動を 支える主日

11月27日(降臨節第1主日)

すべての人権活動の働きを覚えて祈り、信施をお献げしましょう。